

平成28年9月29日



【問い合わせ先】

第一管区海上保安本部交通部

安全対策課長 坂本 敬司

TEL 0134-27-0118(内線2640)

平成28年夏季における事故発生状況について

夏季(7月・8月)における第一管区海上保安本部管内の人身事故及び船舶事故発生状況について、下記のとおり取りまとめました。

記

1 人身事故

- (1) 人身事故者数は、63人でした。(昨年同時期61人)
- (2) 死者・行方不明者数は、22人(死者)でした。(昨年同時期17人)
- (3) マリンレジャーに伴う海浜事故は、24人(昨年同時期18人)、そのうち遊泳中の事故者が11人(昨年同時期14人)でした。
- (4) マリンレジャーに伴う海浜事故のうち、死者は9人(昨年同時期5人)で、そのうち遊泳中の死者は6人(昨年同時期3人)でした。

※ 人身事故とは

海上または海中における、船舶事故によらない乗船者の海中転落、負傷、病気、中毒等の事故、海浜等において発生した乗船者以外の者の負傷、溺水、帰還不能等の事故をいう。

2 船舶事故

- (1) 船舶事故隻数は、27隻でした。(昨年同時期は23隻)

(2) 用途別では、漁船16隻、プレジャーボート10隻、貨物船1隻となっています。

(昨年同時期、漁船8隻、プレジャーボート10隻、遊漁船4隻、旅客船1隻)

(3) 事故種類別では、衝突11隻、転覆4隻、運航阻害4隻、機関故障3隻、浸水2隻、推進器障害1隻、行方不明1隻、その他1隻となっています。

※ 船舶事故とは

海上における船舶に、衝突、転覆、乗揚、浸水、爆発、火災、行方不明、機関・推進器・舵等の損傷または故障、その他安全な運航が阻害された事態が生じた場合をいう。

3 事故の傾向

(1) 人身事故

マリンレジャーに伴う海浜事故は増加しましたが、その主な要因は、磯遊び中の事故等の増加によるものです。

マリンレジャーに伴う海浜事故の内、遊泳中の事故については、例年より減少しているものの一度に4名の方が遊泳中に亡くなられた8月の事故もあり、死者・行方不明者にあっては、例年よりも増加しました。

遊泳中の事故は、ほとんどが海水浴場以外での海浜で発生しており、事故直後から海浜パトロールの強化等に取り組んでおりますが、今後も、海岸管理者等の関係機関と連携し、必要な対策に取り組んでいくこととします。

(2) 船舶事故

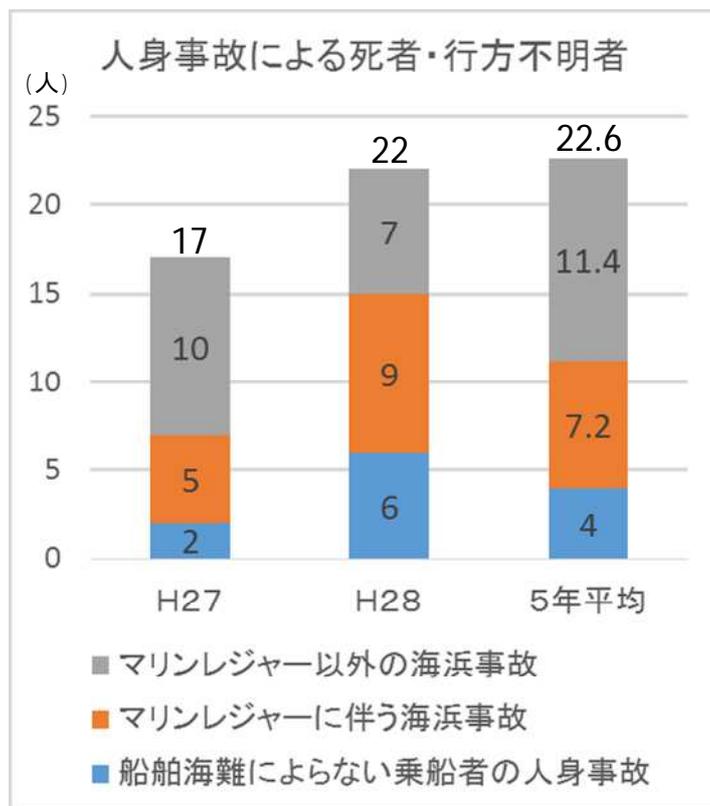
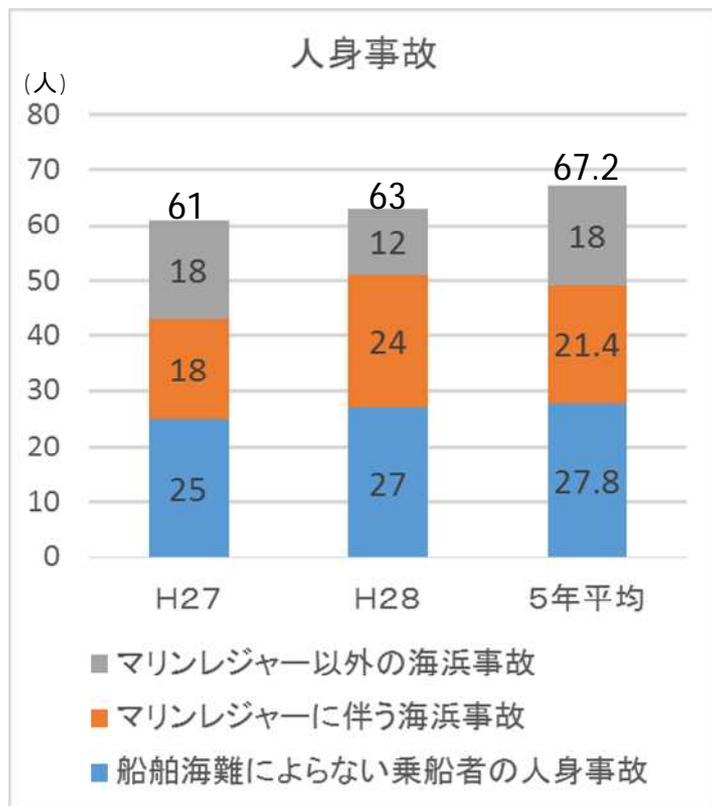
船舶事故の発生隻数は、全般的に例年どおりでしたが、小型漁船の衝突及び転覆事故が例年に比べ倍増しました。

衝突の原因は、一般的に見張り不十分が大半であり、また、転覆の原因は、気象・海象の不注意によるものと思われることから、見張りの徹底、気象・海象の把握について、訪船指導、海難防止講習会を通じて、また、北海道、各漁協と連携して、指導を徹底していくこととしております。

※ 人身事故及び船舶事故の状況は、7月1日から8月31日までの速報値です。

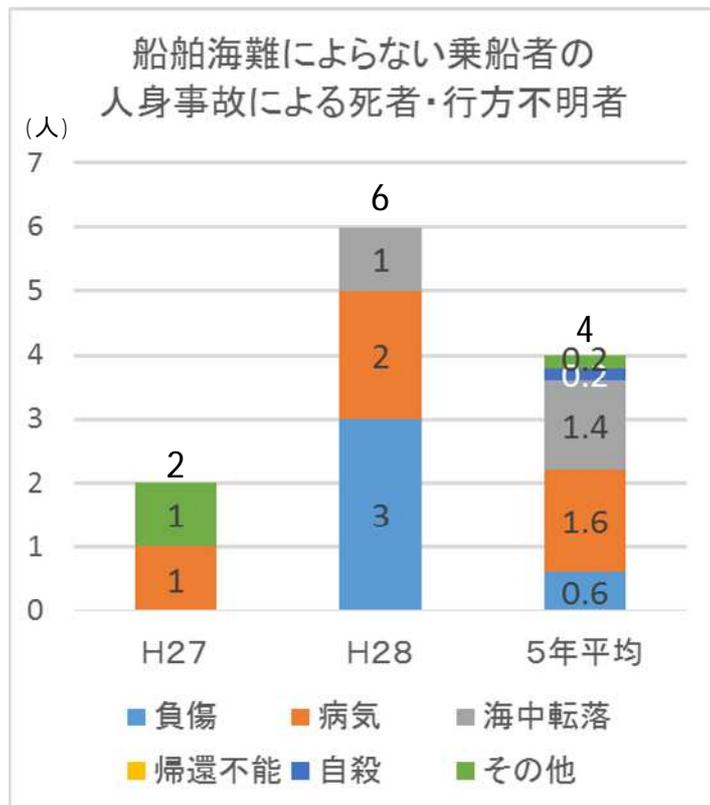
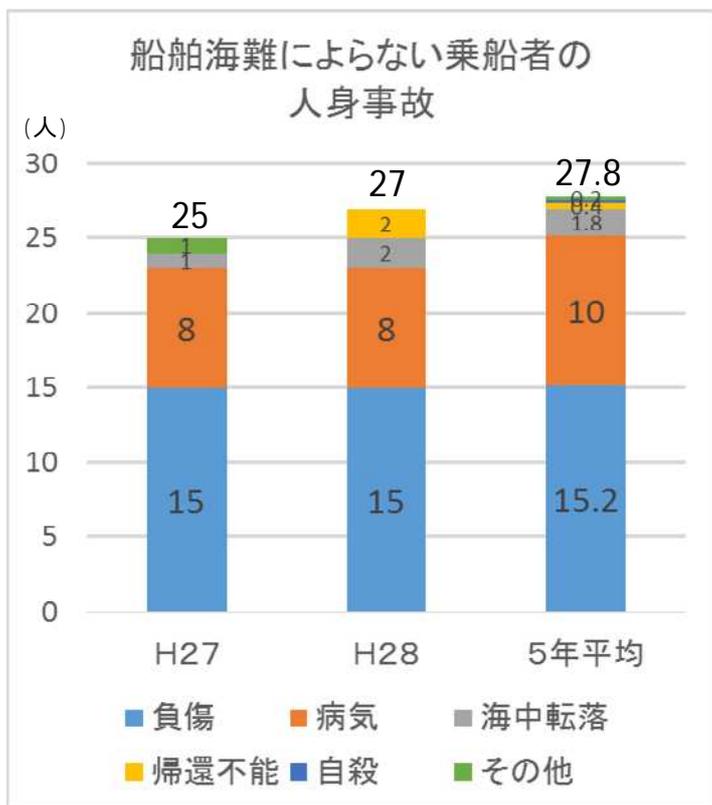
7～8月における海難発生状況(H28とH27及び過去5年(H23～27)との比較)

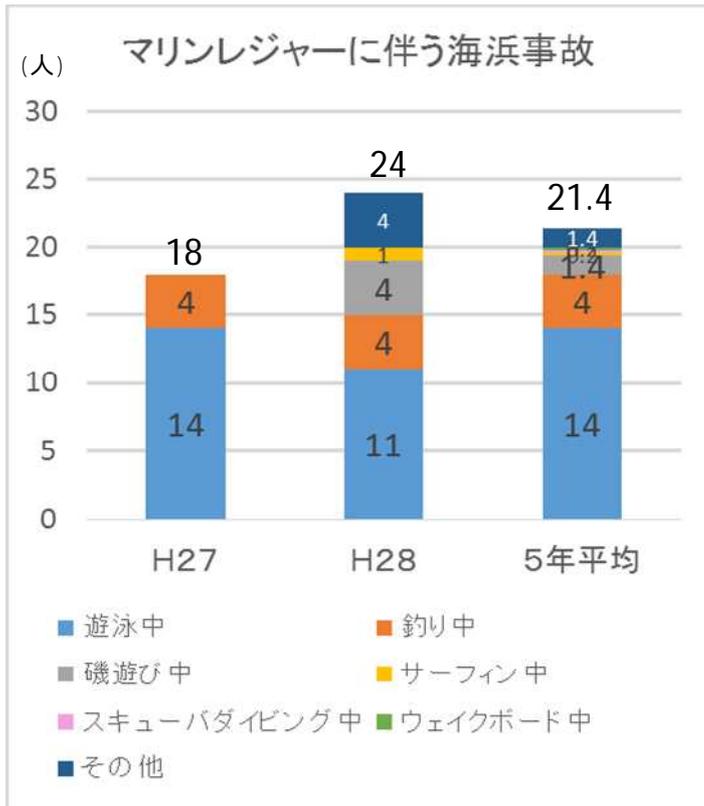
<人身事故>



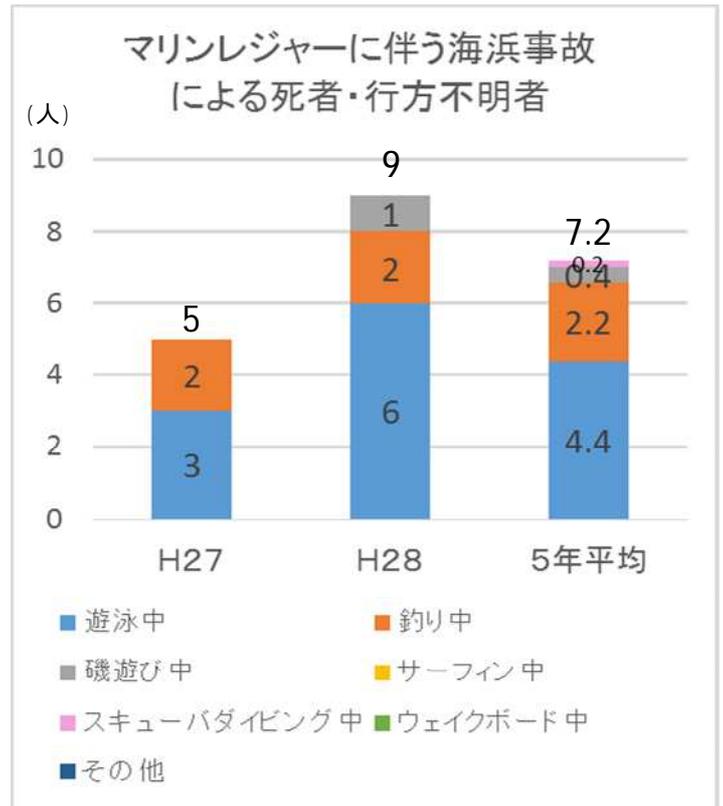
・全体として、過去5年平均と同程度

・過去5年平均と同程度であったが、昨年より増加

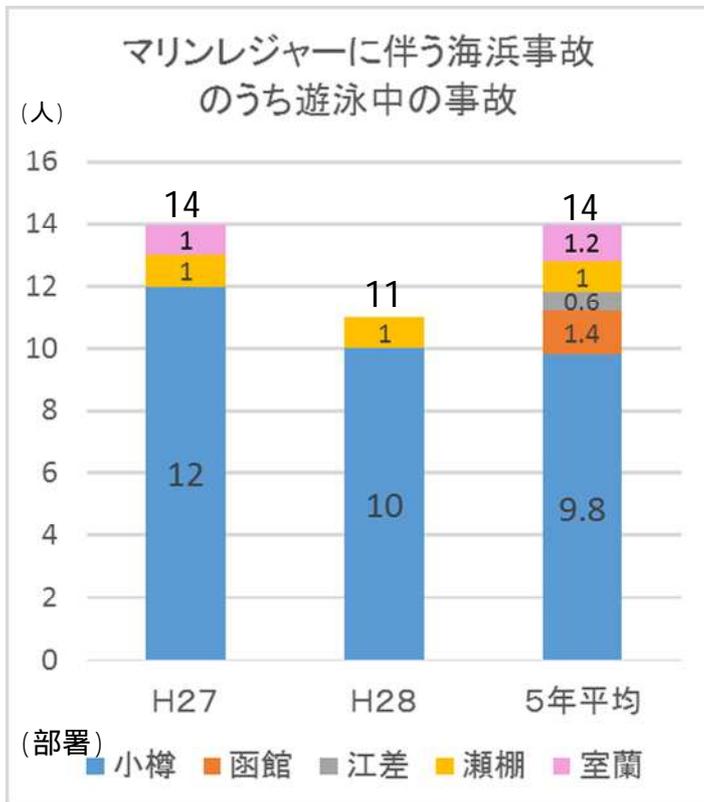




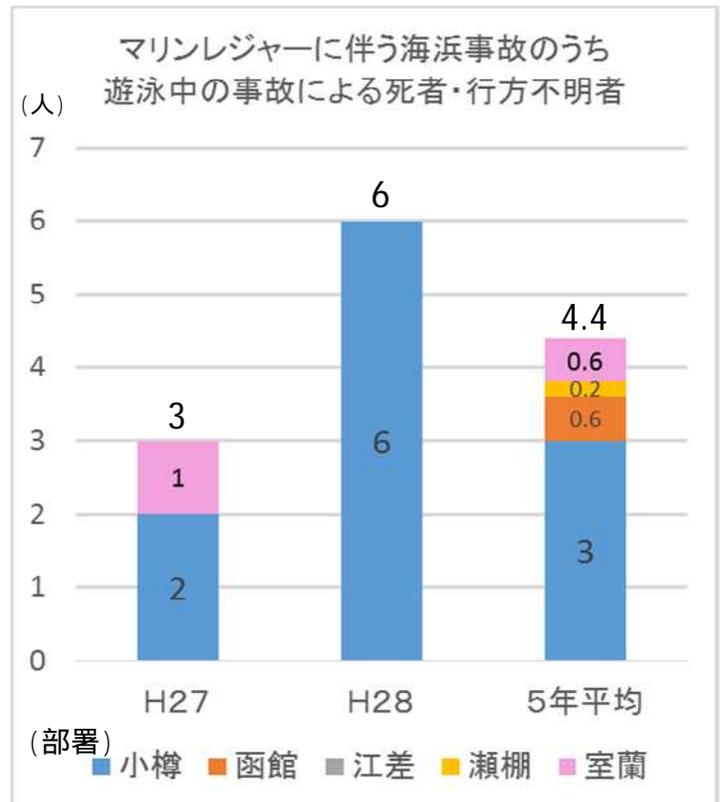
・全体として昨年より6人増であるが、遊泳中の事故者は昨年より減少

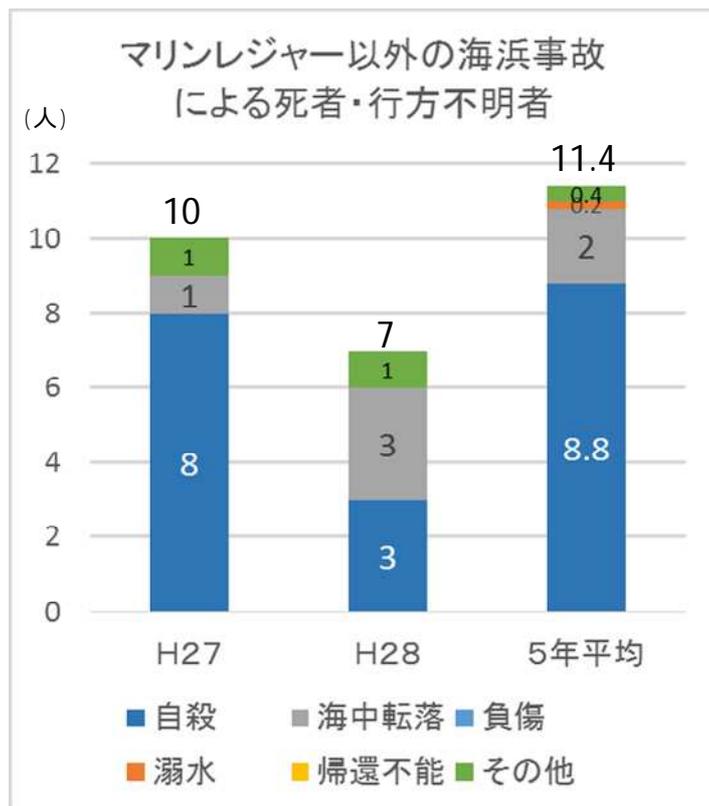
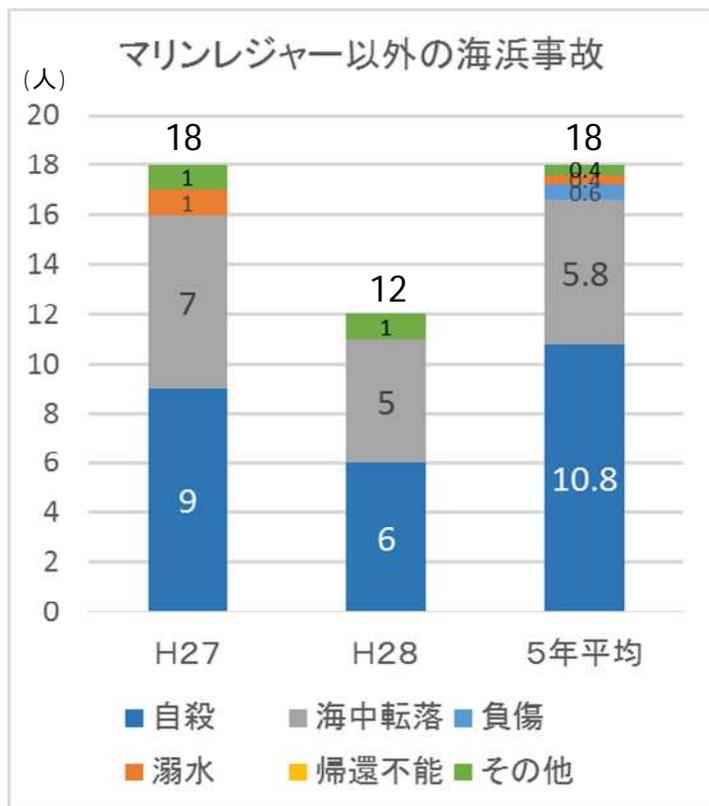


・遊泳中の死者が昨年に比べ倍増

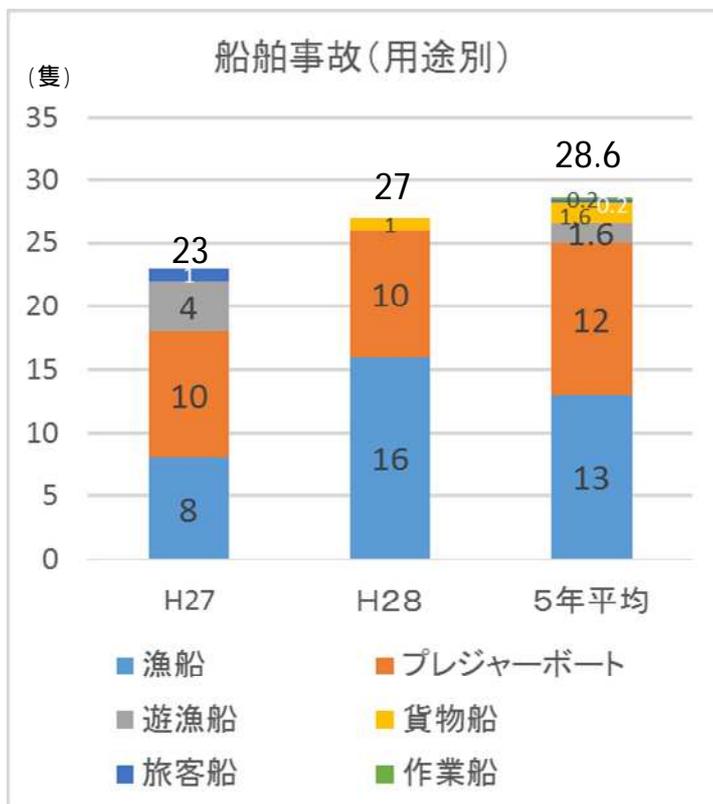
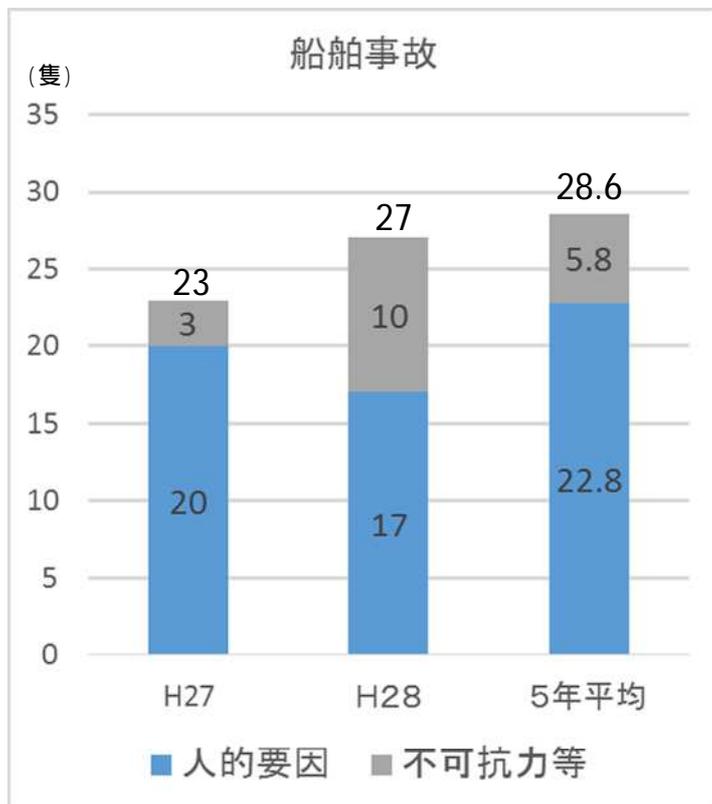


・遊泳中の事故者は、小樽管内海域に集中



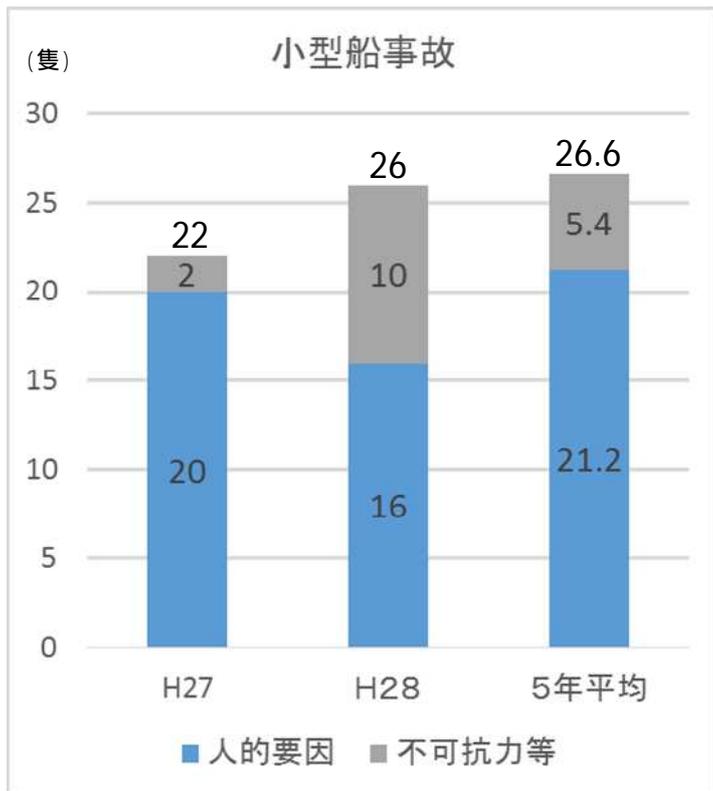
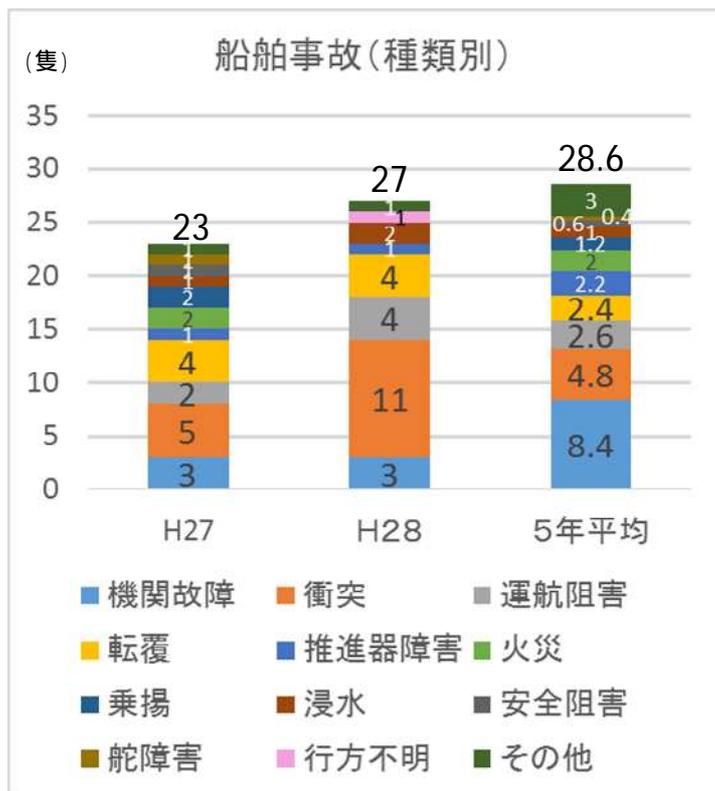


< 船舶事故 >

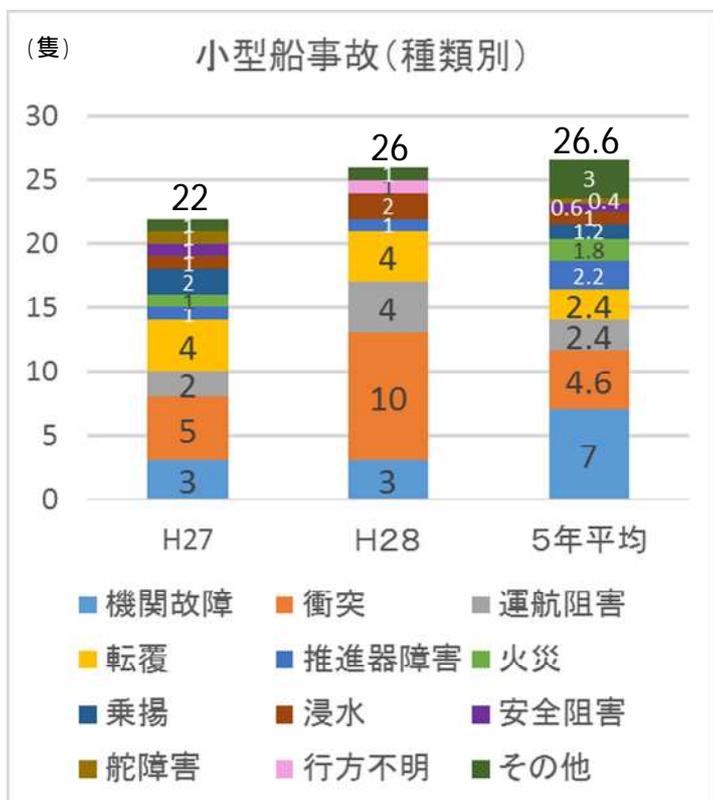
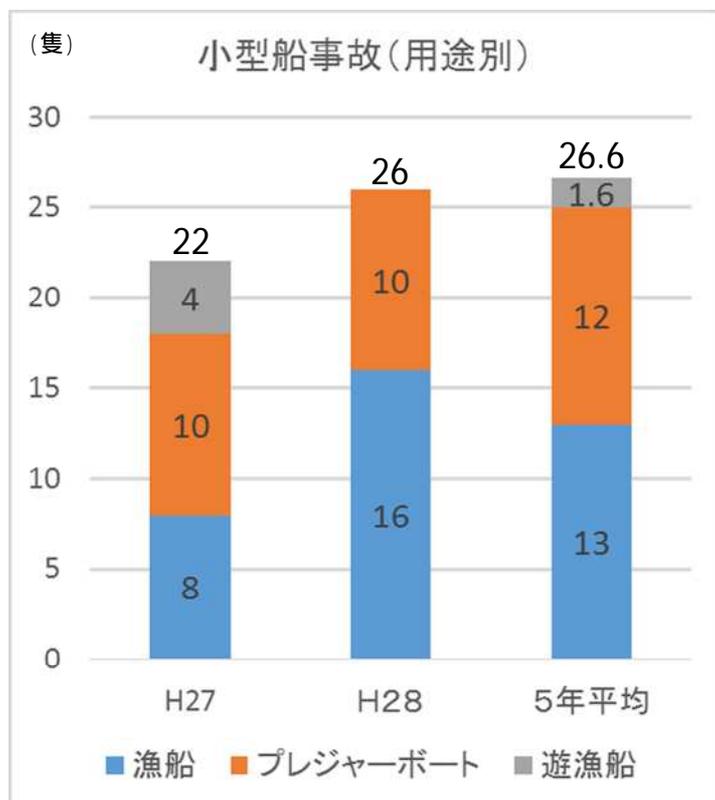


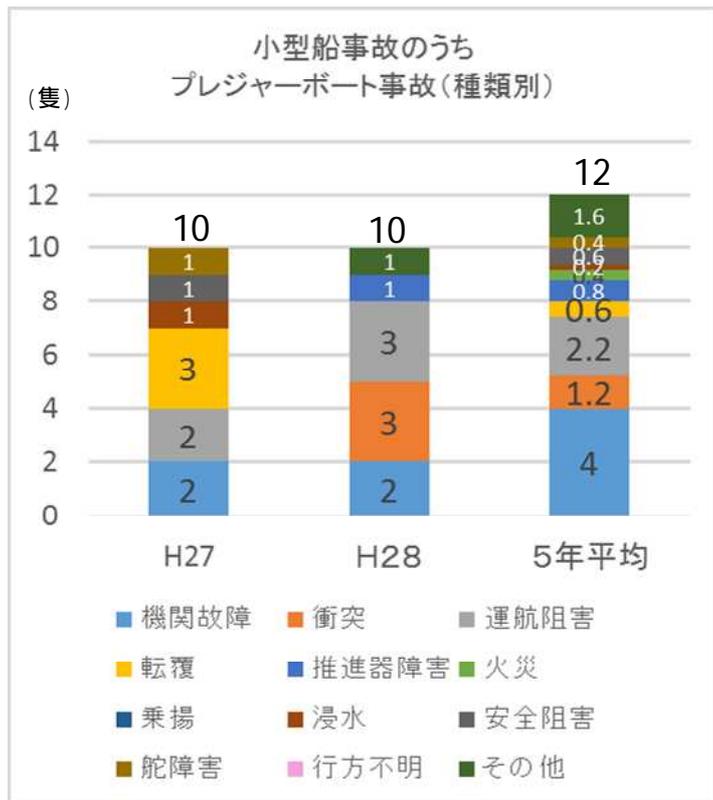
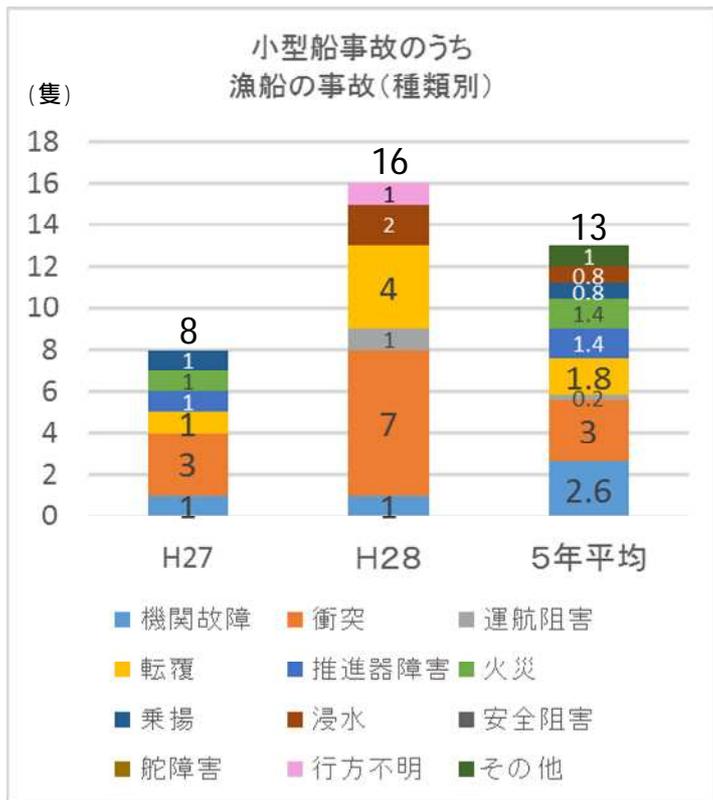
・全体として過去5年平均と同程度

・プレジャーボートの事故は昨年と同程度であったが、漁船の事故が昨年より倍増



・衝突事故が例年に比べ倍増





・漁船の衝突事故が倍増